

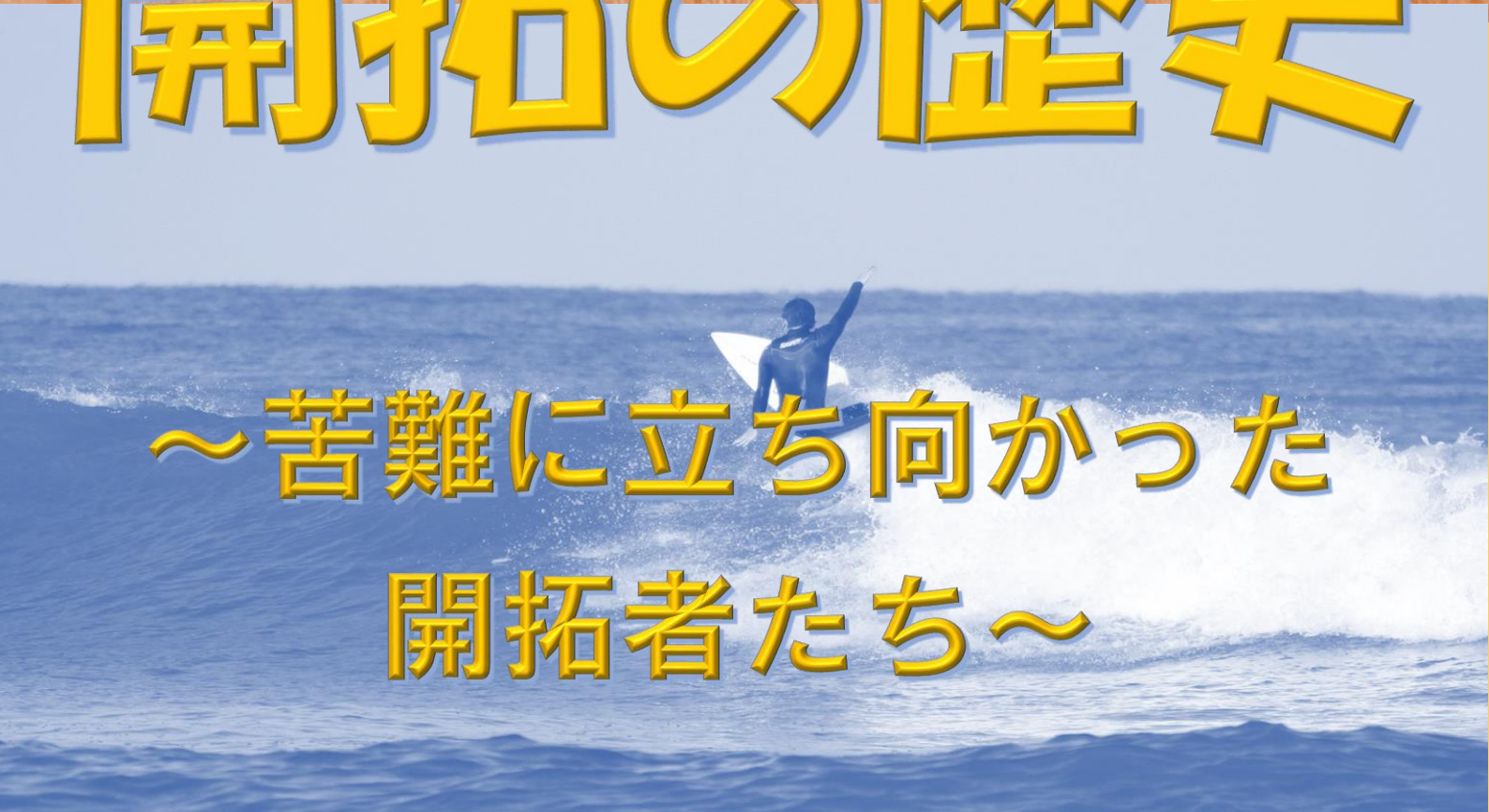


かわみなみちょう

川南町



開拓の歴史



～苦難に立ち向かった
開拓者たち～

1 川南町ってどんなところ？

川南町は、宮崎県のほぼ中央部に位置し、東は太平洋（日向灘）に接しています。川南町の広さは、東西約 12km、南北約 10km、総面積90.12平方キロメートルで、矢吹町の1.5倍ほど、十和田市の8分の1ほどの面積です。

川南町の約40%が森林と農用地で、温暖な気候と豊かな自然の中で、全国有数の食糧生産基地となっています。



宮崎県の位置



農業・漁業がさかんで、
お肉、野菜、魚など美味しい
食べ物がたくさんあります。



川南町のマスコットキャラクター
「トロンボーイ」

2 川南町の開拓のはじまり

川南町への移住は、江戸時代からすでに始まっていました。宮崎県外の移住者を受け入れたり、周辺の村の住民を移したりして進められていましたが、川南町内で開拓が進められたのは、その一部にとどまっていた。

江戸時代が終わり、明治時代の初めごろになると、当時の士族（武士だった人々）およそ 40 名を、川南町にある^{おいけ}小池地区に移住させて開拓に必要な用水路を造り、農業を営ませていました。



川南町小池地区にある石碑。
明治時代はじめのころの
開拓の歴史がきざまれています。

1911年（明治44年）には、川南町の開拓を県・国全体でおし進める計画がスタートしました。当時の川南町は、人口も、田んぼや畑の面積も少なく、松林がところどころに生えているあれ地でした。



あれ地の広がる川南

さらに、川南町の土地は火山灰土が主で、作物を育てるには不向きな土地で、ひんぱんに水不足に悩まされていました。

当時の川南村長が国の大臣あてに書いた手紙に、「開拓にあたって、川南村内を流れる^{へだがわ}平田川・^{なぬきがわ}名貫川の地域で水争いが絶えず、時には争いで血が流れることもある。」と書かれているほどです。

作物を育てるため、水を手に入れる
ことにみんな必死だったんだね。



川南町の開拓をおし進める計画は、1938年から5年間の計画が国に認められ、スタートしましたが、1944年に、太平洋戦争が本格的にはげしさを増し、中止されることとなりました。

川南町には、次のページに詳しく書いてあるとおり、戦争のための部隊や訓練場などがたくさん造られ、その土地の多くが戦争のために使われることとなりました。

川南町で進められていた開拓は、戦争によって大幅に遅れをとることになってしまうのです。



3 川南町と戦争の歴史

川南町と戦争の関わりを考える上で重要なものが、「落下傘部隊(らっかさんぶたい)」です。落下傘部隊は、飛行機で敵軍の上空に近づき、飛行機から飛び降りて攻撃するための部隊です。川南町には、1941年に、この落下傘部隊がつくられ、飛行場や^{へいしや}兵舎が整備されました。近くに^{にゅうたばるひこうじょう}新田原飛行場（現：宮崎県新富町）があることも、落下傘部隊が設置された理由の一つです。

落下傘部隊は、その作戦中に、死んでしまうことを覚悟でつくられる決死部隊でした。当時の兵隊の中でも若く、身動きが速く、そしてゆうかな者が選ばれて集められ、「空の神兵」と呼ばれていました。



落下傘部隊



【空挺落下傘部隊発祥之碑】

昭和38年に、落下傘部隊の遺族会によって建てられた石碑です。

石碑のそばには、護国神社が建立されており、戦争でなくなった人のたましいをなぐさめるため、毎年11月に例祭が行われています。

4 戦後の開拓 ～「川南合衆国」のはじまり～

日本は、戦争によって土地があれたことにより、コメの生産量がそれまでのおよそ半分にまで落ち込むこととなりました。

1945年11月、政府は、危機的な食料不足に対処するため、職を失った市民や軍人、外国から引きあげてきた人々に対し、農業を始めてもらおうと考えました。

当時の川南町は、落下傘部隊をはじめとして、飛行場や落下傘訓練場など、戦争のために使われていた土地がほとんどでした。そこで、戦争が終わったことをきっかけに、戦争のために使われていた土地を、食べ物を作るための農地とするため、大規模な開拓がスタートしたのです。

開拓のために解放された土地は、およそ3000ヘクタール（川南町の面積のおよそ3分の1）と、非常に広大な面積でした。この広大な土地を開拓するため、全国47都道府県の全ての人たちが入植者としてやってきたため、川南町は「川南合衆国」とも呼ばれています。

お父さんやおじいさんの代から
川南町に住みはじめた、という
人もたくさんいるよ。



川南町の情報誌。

「川南合衆国」は、「開拓の町」を掲げる川南町にとって、ぴったりのキャッチフレーズです。



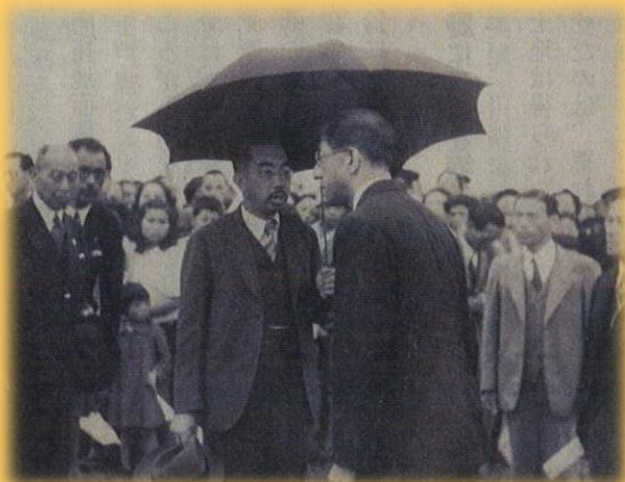
5 困難を極めた川南町の開拓

戦後、川南町で進められた開拓は、田畑とすることに向いていない土地も多くありました。まずは、何と言っても水不足の問題です。ひどい年には、全く作物が取れなくなるほどの水不足になやまされていました。



力を合わせて田畑を開く入植者

それ以外にも、畑をたがやすための機械や燃料もなく、慣れない作業を人力でやらねばならないこと、安定した収入を得られないこと、電気や食料も十分になかったことなど、様々な困難が立ちはだかっていました。こうした中、農業をあきらめて川南町をはなれてしまう人も少なくありませんでした。



昭和24年には、昭和天皇が来県され、開拓にはげむ入植者に励ましの言葉をかけられたことがありました。

そこで、川南町は、まず水不足の問題を解決するために、ダムを造り、田畑に水を送ることになりました。他にも、食料を得るために、水が少なくても育てられる作物を作るなど、さまざまな知恵で困難を乗り越えてきました。

こうした努力の結果、田んぼと畑を合わせて1900ヘクタールの開拓に成功しました。たくさんの問題を乗り越え、広大な土地の開拓に成功した川南町は、青森県十和田市、福島県矢吹町と合わせて「**日本三大開拓地**」と呼ばれるようになりました。



青鹿（せいろく）ダム



あれた土地を、機械も使わずに、
くわ1つでたがやすって、
どれだけ大変だったんだろうね・・・！



当時の暮らしの様子

おわりに ～川南町に受けつがれる開拓者精神～

2010年、川南町は、口蹄疫（こうていえき）という家畜の病気の被害にあいます。これにより、多くの牛や豚が殺処分されることとなり、農業をやめてしまう人も少なくありませんでした。しかし、川南町はこうした苦難にも負けることなく、復興に向けて、前へと進み続けています。

川南町では、町を活性化させるイベントとして、2006年から毎月第4日曜日に、「トロントロン軽トラ市」が行われています。「トロントロン」は、川南町の中心市街地の特徴的な地名です。

町の商店街に、地元の特産品をはじめ、たくさんの商品を荷台に積んだ軽トラックがずらりと並ぶ朝市で、その様子は一見^{いっけん}の価値あります。



お客さんであふれかえる
トロントロン商店街

そのほかにも、口蹄疫からの復興の願いをこめて、夜空に花火を打ち上げる「フェスティバル・イン・トロントロン」など、様々なイベントが行われています。



困難を乗り越え、あれた土地を切り開いた「開拓者精神」は、今も川南町の人々に受けつがれているのです。

殺処分された家畜のたましいをなぐさめるための慰霊碑。現在も毎年、慰霊祭が行われています。

川南町 開拓の歴史

令和 4 年 9 月
川南町教育委員会

〒889-1302
宮崎県児湯郡川南町
大字平田 2386 番地 3